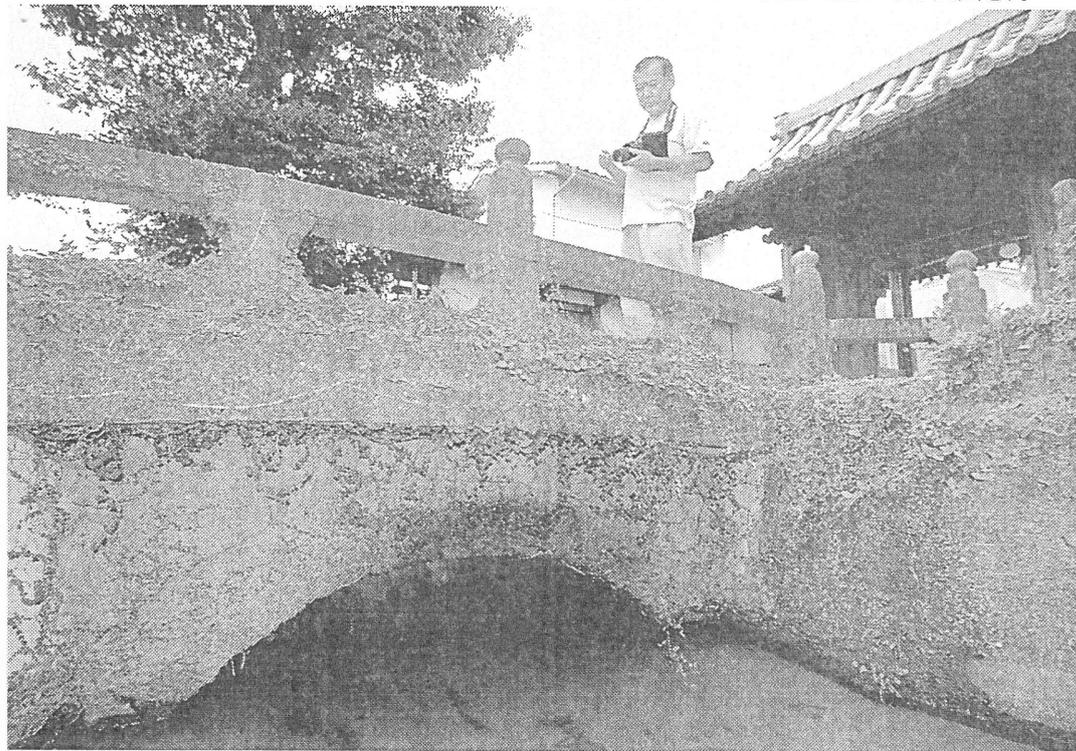


県内最古の石造アーチ橋であることが分かった大覚寺参道橋。橋上に立つのは賛田さん



## 県内最古の石造眼鏡橋

### 宮崎の研究者 佐賀の大覚寺で発見

1700年建造とされる県内最古の石造アーチ橋(眼鏡橋)の歴史を28年さかのぼる眼鏡橋が、佐賀市伊勢町の大覚寺にあることが、宮崎市のアマチュア石橋研究者らの調査で分かった。この眼鏡橋は全国でも10番目前後の古さとみられる。1989年以前の旧佐賀市内に眼鏡橋はなかった、というのが通説だったが、これを覆す発見。石橋の宝庫と言われる九州に眼鏡橋が広がったルーツをひもとく資料にもなりそうだ。【上田泰嗣】

## 足元にあった「宝」歴史覆す

この橋は同寺の参道橋 知られていなかったのは、いずで、長さ4.4、幅3.4。 れも1700年建造の小今年8月、宮崎市のアマ 城市の「三岳寺太鼓橋」チユア石橋研究者、賛田 と嬉野市の「吉浦神社大 岳和さん(55)が佐賀市を 黒丸橋」だった。九州最訪れた際に発見した。そ 古とされる長崎眼鏡橋はの後、小城市の石橋研 1634年建造で、大覚 寺参道橋はそれから38年 遅いことになる。

(48)が、欄干の親柱に「寛 文十二壬子歳(1672 年) 南田(8月) 上旬」 橋が架かっているのは、佐賀市内を流れる多 布施川から農業用水を引 ために造られた水路。 周りは住宅街で見通しが きれいで、意識して側面を

見なければアーチ橋と気づくのは難しい。

熊本県八代市の石橋の博物館「東陽石匠館」の上塚尚孝館長(70)によると、眼鏡橋は全国で約1800あり、うち95%は九州・沖縄に集中している。

「眼鏡橋は大陸から長崎に入って九州に広がったと言われる。今回の発見で長崎から佐賀を通って石橋が広がった道のりを追うことができるかもしれない」と上塚館長は話している。

大覚寺の住職(55)は「子供のころは橋の上で夕涼みをしていた。そんなに大切なものとは思っていませんでした」と足元にあった「宝」に驚いて